

VR認知症体験会

2024年9月20日（金）実施

茨城県作業療法士会より3名の講師をお招きし、「VR認知症体験会」を実施しました。本校福祉系列生徒11名と教員6名が参加しました。

DVDにて認知症についての学習後、レビー小体型認知症の幻視を再現したVR体験とAR体験を行いました。



まさに本物のように存在し、利用者さんに実際に見えているものを「否定しない」ということを学びました。また、何がどのように見えたかなど、「話を深めない」ということも、不安を強めないためには重要である事を学ぶことができました。存在しないものが見えているので「怖い」という感想を抱く生徒が多くいました。



AR体験では怖いというより、話しかけるようなしぐさをする生徒が見られました。ARで見えた人物が穏やかな表情をしていて、何か話しかけている様子だったからだと思います。



幻視にも種類があり、穏やかな雰囲気であれば恐怖は無く、見覚えのある家族であれば話を

そのため、介護者は相手の不安を取り除くためにその場を一緒に離れ、安心・安全な場所でそっと見守るなど、状況に応じた支援を展開する必要があると、体験を通し学ぶことができました。

